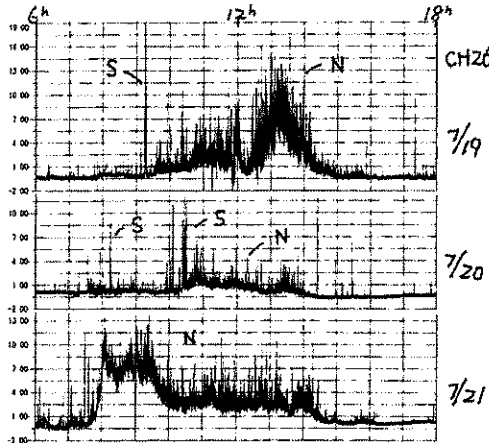


原稿校了後の前兆変化について

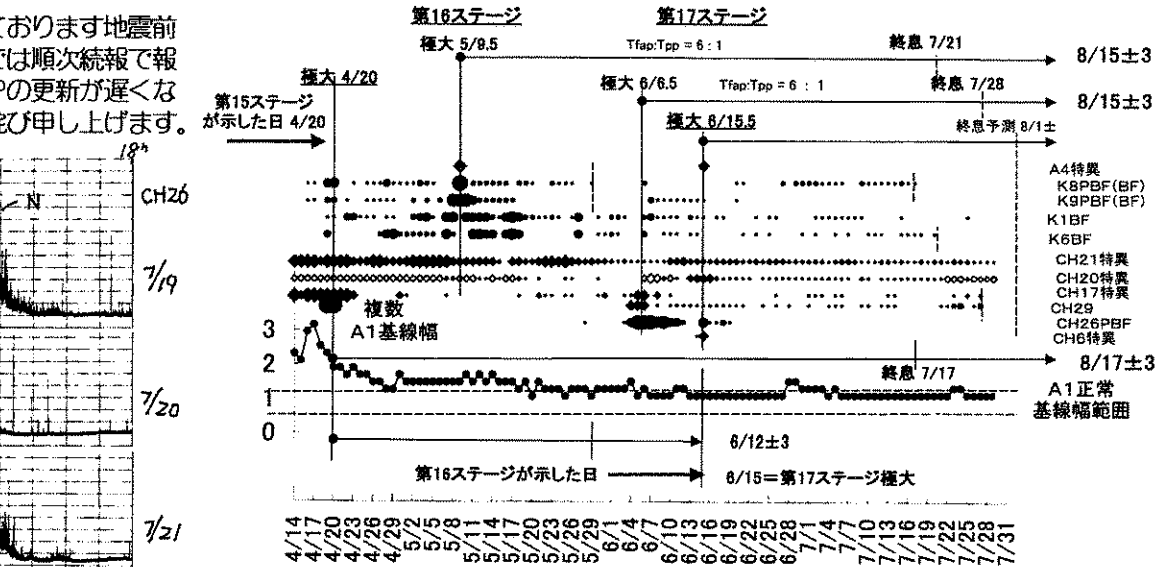
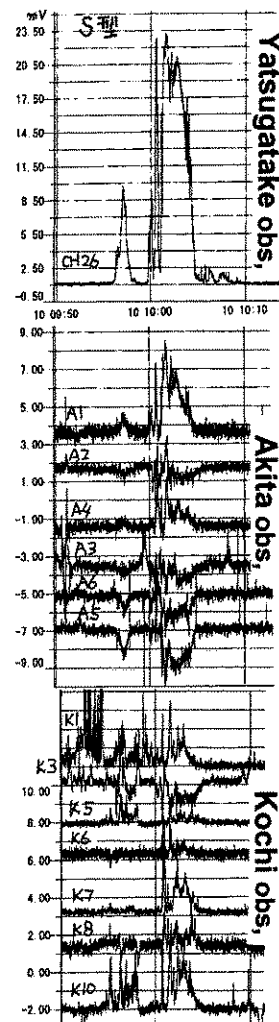
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 続報 前兆関係再検討 8月中旬以前発生の可能性否定

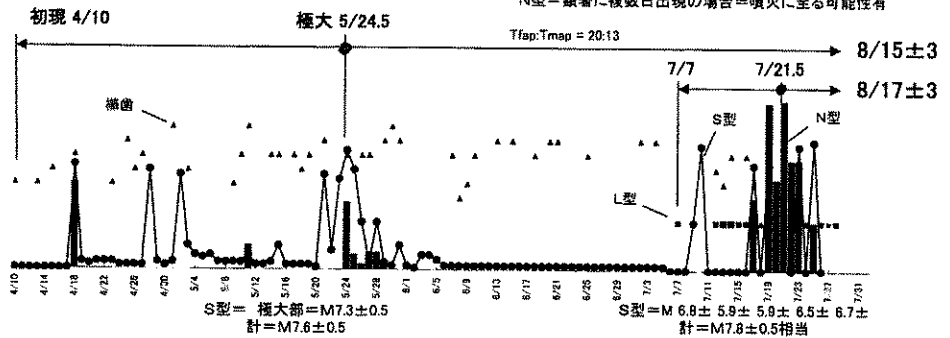
E-mail, FAXで配信しております地震前兆検知実験・観測情報では順次続報で報告しておりましたが、HPの更新が遅くなりましたこと、まずお詫び申し上げます。



上: 7/17~23期間出現のN型火山前兆の一部
下: 7/10のS型火山帯近傍地殻地震前兆



火山帯近傍地殻地震・火山前兆

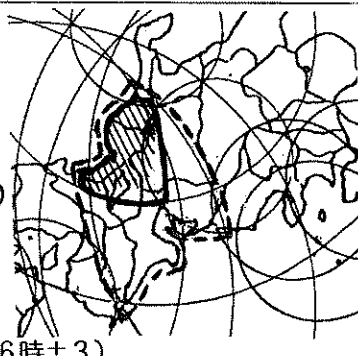


長期継続特殊前兆群No.1778は、CH20,21の特異のみが継続出現中で右上No.1778前兆出現状況図中に記した様な前兆関係を見直し、現状考え易いのは、8/17±を示す関係です。

この認識が正しい場合には、現在継続中のCH20,21前兆も8/1±には終息する可能性が示唆されます。左上波形は八ヶ岳のCH26の火山性前兆変動です。顕著な変動は、秋田観測点・高知観測点にも時刻同期で出現しています。大きな変動がN型で、複数日出現した場合には、火山噴火活動に至っています。左波形はS型火山帯近傍地殻地震前兆波形で、3観測点に同期出現していることが判ります。

こちらは長野北部地震・熊本地震の際の主形態前兆と同型で火山帯近傍での震源が極めて浅い中大規模地震前兆で、変動面積が規模と直線相関しています。左上のN型顕著な波形中のSと記した上向きの突出変動は全て左波形S型の様な変動です。今回は、N型のみならず、S型も顕著でM7.5±以上規模の可能性を示しています。いずれもNo.1778前兆と同様の領域の可能性があり、関連が考えられます。発生

- ◆ 推定領域: 右図太線領域内=大枠推定
斜線領域=可能性考え易い推定域
丸斜線=参考推定領域
- ◆ 推定規模: M7.8 ± 0.5
(地震発生前後に近隣火山噴火の可能性も有)
- ◆ 推定時期: 前兆終息確認後計算予定
- ◇ 推定地震種: 震源浅い陸域地殻地震
- ◇ 推定発生時刻: 午前9時±1 (又は午後6時±3)



推定時期も現在の認識が仮に正しい場合には同様な08月17日±時期と同一時期を示します。このような観測例は初めてです。M7.5±以上の地震発生と同時期に近隣火山噴火の可能性も否定困難。現在の領域推定が仮に正しい場合には、白山周辺の可能性も否定できません。観測と検討を続けます。